

初めまして。青年海外協力隊の佐藤健大です。

私は、平成23年1月より2年間アフリカのマラウイ(正式名:マラウイ共和国)で家畜飼育隊員として牛の家畜人工授精技術をマラウイアン(マラウイ人)に伝え、最終的に多くの農民人工授精師が技術を身につけ、根付いてもらう事を目的に活動を行っています。

今回はここアフリカのマラウイについての概要を紹介いたします。

マラウイは内陸国で、北はタンザニア、西はザンビア、南東はモザンビークに接しており、面積は、北海道と九州を足したほどの大きさで縦に細長く、マラウイ湖という琵琶湖の40倍以上の大きさを持つ湖、そして3000m級の山を有しています。

人口は1400万人で英語、チェワ語そしてトゥンブカ語が主要な言語になっていますので、首都のリロングウェ付近の市場などのマーケットでも英語とチェワ語、もしくは上記3つの言語を話すトリリンガルの方が多くいます。

食事はライスとシマ(メイズというトウモロコシの一種を粉にしたものを加熱しながら練った物で、餅とはんぺんの中間のような伝統的な主食です)にチキン、チャンボ(ポピュラーな淡水魚)、ビーフ等をおかずにしたものが一般的です。

そして、シマは基本的に右手のみで食べるので、熱々のシマを千切り、手で丸めた後に、おかずと一緒に一口サイズにして食べます。そのため、シマには洗面器に水を張ったものが一緒に出てくるので最初に手を洗い、慣れるまでは手がベトベトになり、食器の周囲も汁が垂れてかなり汚してしまいます。

私もこれから食べる練習をしていきたいと思います。

